

第三回 顎関節と体全体との関係その3

「頭蓋骨の左右・前後のズレ・捻れ」と左右の歯の咬み合わせの高さの違いにより、全身の骨格の捻れを生じます。

足踏みをした後スグに両足を10cm位離して5~10秒、真スグに立っています。と、おしりだけが左右片方へズルズルとズレていきます。

そこで、片側の歯だけ反対側よりも少し高くします。と、おしりがさらにズレていくか、または反対側の方へズレていくかどちらかです。

又、前後にフラフラ動くのは硬膜の緊張をおこしております。

特に短足側の体半分に異常をおこし、歩く時短足側の足を引きずって歩いています。重病はこのタイプです（自然に直す力が弱い）。病気の中の病気とも言い、医者に行ってもわからないのはこのタイプです。

このタイプは前歯の上下の咬み合わせのあたりによって、随分改善されます。つまり「原因不明の体調の不良。それは歯の咬み合わせの狂いから生じています。」

このズレにより、首・背中・肢関節・ヒザ・足首に異常をきたします。

それだけではありません。体の胴体部の上側の肩と下の腰とが逆方向に捻っていますので、内臓にも影響をおこします。

その為に、硬いベッドでは仰向けには安定が悪く寝られないはずですが。横向きか、うつぶせになるかどちらかです。

前後の揺れがあれば、必ず左右の揺れ、又はズレがあります。左右を治してそれから前後です。

又、最近増えて来たタイプの顎関節症は、前歯でものが咬み切れなくなったタイプです。

…つまり「オープンバイト」です。

ひどくなると、一番奥の歯1~2歯位しか上下の歯があたらなくなります。上下の前歯と奥歯半分前寄り咬み合わせでも隙間が出来てきます。

左右の顎も痛ければこめかみも痛い、首と頭のつけ根が痛いだけでなく体全体の不調を訴えます。